

HTLV-Iウイルスの母子感染 (栄養法別感染率と栄養指導について)

安次 嶺 馨

要約：HTLV-Iキャリアから出生した児47人について、HTLV-I抗体検査を行った。抗体陽性率は母乳栄養児15%、混合栄養児0%、人工栄養児4%であった。キャリアから生まれた児の栄養指導については、母乳栄養と人工栄養のリスクを明示して行う必要がある。またキャリアのフォローアップの指針作りも早急になされるべきである。

見出し語：HTLV-I母子感染、児の栄養法別抗体陽性率

対象および方法

当院へ異常新生児を最も多く搬送する近隣市の産科病院では、4年前より妊婦のHTLV-I抗体スクリーニングをルーチンに行い、陽性妊婦には母乳中止を勧めている。しかし、その後の児の追跡調査はなされていない。昨年より、我々は産科病院と協力して抗体陽性妊婦から生まれた児の一部にHTLV-I抗体検査を行っている。少なくとも12カ月以上の児とその同胞について検査を行った。HTLV-I抗体検査はPA法(富士レビオ)でスクリーニングを行い、陽性者にはIF法(MBL、フルオロATL A)で確認を行った。対象は19人の母親から生まれた47人の子どもである。年齢は12カ月か

沖縄県立中部病院小児科

Okinawa Chubu Hospital

ら13歳にわたっている。

結果

母親からの聞き取り調査によると栄養法は母乳のみ13例、混合10人、人工乳24人であった。栄養法別に児の抗体陽性率をみると、母乳15%、混合0%、人工乳4%であった(表1)。母乳栄養児について母乳栄養の期間、検査時年齢、抗体検査結果を示した(表2)。母乳栄養の期間は1カ月4人、3カ月1人、6カ月1人、8カ月3人、12カ月4人であった。母乳による母子感染と考えられたのは2例で、授乳期間は8カ月と12カ月であった。

表1 HTLV-Iキャリアより出生
した児の栄養法別抗体陽性率

栄養法	対象	抗体陽性	陽性率(%)
母乳	13	2	15
混合	10	0	0
人工乳	24	1	4
計	47	3	6

考察

HTLV-Iの母子感染のルートは母乳を介するものが最も多いが、その他のルートも存在する。筆者の限られた症例では完全母乳栄養児13例中感染は2例(15%)にみられた。母乳をいくらかでも与えた例として混合栄養も含めれば23例中2例(9%)が感染したことになる。一方、人工乳のみで栄養した場合でも24例中1例(4%)に感染をみている。

現在まで、HTLV-Iキャリアから出生した児の栄養法別感染率についていくつかの報告がある。主として九州、沖縄地方からの報告であるが、母乳栄養児の抗体陽性率は4.9%~42.8%とかなり幅がある。20%前後とする報告が最も多い。一方、人工栄養児の抗体陽性率は0~9.7%に及び、無視できない値である。

最近話題になっているのは、母乳栄養の期間によって感染率が異なるということである。池松ら¹⁾の沖縄県での調査によると、抗体陽性率は母乳栄養1年未満では19.5%、1年以上では42.8%であった。また園田ら²⁾の鹿児島県での調査によると、母乳栄養6カ月未満では4.9%、6カ月以上では19.2%であった。これは乳児期前半においてはキャリアの母親から移行したHTLV-I抗体が児への感染を防いでいる可能性があるためと考えられている。筆者の例でも

表2 母乳栄養児の抗体検査結果

症 例	年 齢	母乳期間	抗体
I. Y.	3歳11月	1月	—
N. Y.	4歳9月	6月	—
A. A.	2歳7月	1月	—
G. H.	8歳6月	12月	—
M. K.	2歳	12月	+
M. Y.	1歳11月	8月	+
F. C.	13歳	1月	—
F. K.	1歳10月	1月	—
M. E.	2歳	3月	—
T. C.	3歳	8月	—
T. K.	1歳7月	12月	—
O. R.	4歳	8月	—
N. S.	5歳	12月	—

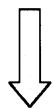
母子感染をおこしたものは8カ月、12カ月と比較的長期母乳栄養を行っていた。8カ月以上完全母乳栄養を行った7例中2例(29%)に感染が認められたのに対し、6カ月以下の6例中1例も感染は認められなかった。

これまでHTLV-I母子感染について多くの基礎的・臨床的研究がなされてきた。母乳栄養と人工栄養による感染率について、かなり実態が明らかにされてきた。これまで妊婦にHTLV-Iスクリーニングが各地で広く行われ、抗体陽性者には母乳栄養中止を勧告するということが安易になされている。また、キャリアである母親の予後について十分な説明がなされないままスクリーニングが広く行われている。今後、HTLV-I母子感染予防事業を行うに際し、栄養法による感染率を諸家の報告に基づいて明確に示す必要がある。さらにキャリアと判明した母親の追跡についての指針作りも平行して行うべきであると考えられる。

文 献

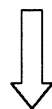
- 1) 池松秀之ほか：HTLV-Iの母子感染と授乳期間の検討、感染症学雑誌、63：65、1989
- 2) 園田俊郎ほか：鹿児島県におけるHTLV

－ I 母子感染の実態調査（1986－1989）。
成人T細胞白血病（ATL）の母子感染防止に
関する研究班、平成元年度研究報告書、1990、
P 23.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:HTLV- キャリアから出生した児 47 人について、HTLV- 抗体検査を行った。抗体陽性率は母乳栄養児 15%、混合栄養児 0%、人工栄養児 4%であった。キャリアから生まれた児の栄養指導については、母乳栄養と人工栄養のリスクを明示して行う必要がある。またキャリアのフォローアップの指針作りも早急になされるべきである。